稲作　営農情報

～生育に応じた適期の中干しと、いもち病防除の徹底を！～

1．分げつを早期に確保する水管理と適期の中干し

高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎主体に穂数を確保することが重要です。
そのため６～９葉期に発生する一次分げつを確実に確保する水管理がポイントとなります。

① 分げつの発生を促進するため浅水管理とし、水温・地温を高め、気温日較差は大きくなるようにします。かんがいは水温の低い早朝に、短時間で行いましょう。

② ㎡当たり茎数 441 ～ 476 本(70 株／坪で 20 本前後)を確保した時点が、中干し開始の目安です。平年では６月25 日頃ですが、ほ場の状況をよく確認して行ってください。
なお、排水不良で中干しの効果が不十分となりやすいほ場で、畦畔に十分な高さがある場合は、中干し時期に水深 15cmに保つことで分げつの発生を抑制できます。その後は中干しを実施しますが、幼穂形成期前までに終了します。

③ 中干しは、７～10 日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。

④ 中干しに併せ溝切りをすることで、その後の水管理 (間断かんがい・カドミウム吸収を抑える湛水管理終了後の排水作業) や秋作業がスムーズとなりますので、積極的に実施しましょう。

2．補植済み余り苗は直ちに処分

補植済み余り苗ではいもち病が発生しやすく、周辺ほ場への強力な伝染源となります。
ほ場に放置されている苗が散見されますので直ちに処分してください。

3．いもち予防 (オリゼメート) 粒剤施用

オリゼメート粒剤は初期の発病を抑えることで、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。箱粒剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、６月15日頃（６月12 ～ 18日）に 10ａ当たり２kgを散布します。湛水状態で散布し、散布後４～５日間は入水せず、７日間は落水や掛け流しは避けてください。

4．斑点米カメムシ類の生息地を減らす雑草管理

斑点米を発生させる主要種はアカスジカスミカメで､アカヒゲホソミドリカスミカメが混発することもあります。

アカスジカスミカメはイネ科雑草等で繁殖しますので、密度を抑制するため、出穂前までに畦畔や農道、休耕田等で餌となる穂を付けさせない雑草管理が重要です。

また、ほ場内にイネ科やカヤツリグサ科の雑草があると成虫の侵入を助長するので、ほ場内の雑草対策も徹底してください。

※草刈り作業は、できるだけ地域や集落でまとまって、一斉に作業を行うようにしましょう。

5．表層はく離やアオミドロ等の防除

表層はく離やアオミドロ等の発生が多いと、地温や水温が低下し、生育が抑制されます。できるだけ発生が多くなる前から、気温の低い早朝や雨の日の水の入れ替えを基本とします。水管理では効果が十分でない場合はモゲトン剤等を散布します。

6．ばか苗病株の早期発見と早期抜き取りに御協力を

種子伝染性の病害であるばか苗病株は、６月中～下旬頃にほ場での発生が見られるようになります。

採種ほ場周辺（荷八田、朴瀬、四日市地区）でばか苗病株が発生した場合は、来年度の種子に感染する恐れがありますので、早期の抜き取りに御協力をお願いします。

生産履歴記帳運動

栽培協定書／生産履歴用紙提出時期です！

【生産履歴用紙を提出できる作物】

◎春ねぎ	提出期限６月15日(水)まで
◎きぬさや	提出期限６月30日(木)まで
◎ふき	提出期限６月30日(木)まで
◎初夏穫りキャベツ	提出期限７月15日(金)まで

※翌月提出分については、再配布されてしまう場合がありますのでご了承ください。

【農薬は正しく使いましょう!!】
●農薬の使用前に必ずラベルを確認しましょう!!
◎農薬は必ず鍵のかかる場所へ保管して、誤飲・誤食・盗難を防ぎましょう!!
●住宅地など、周辺住民や、周囲の作物へ配慮した散布計画を立てましょう！

◆安全安心な農産物づくり推進協議会◆

今月のあなたの運勢（2016年６月）
牡羊座（3・21～4・19）　フットワークが軽くなりそう。興味のあることには、意欲的にトライしてみましょう。旅行も大賛成！